

2月は学力月間、学びの育ちを確認する時期!



今は、存在していない職業に就く子どもたち



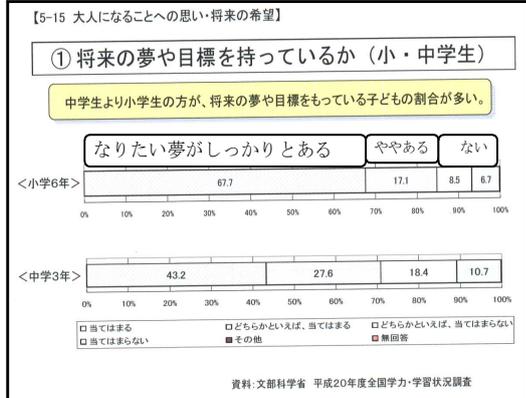
2月は、「学力強化月間」と設定し、どの学年も身に付けなければならない当該学年の学習に取り組んでいます。2年生が校長から【合格印】をもらいに職員室へ大勢訪れています。2年生は、かけ算と2年生で習う漢字に取り組み、頑張った証【合格印】をもらっています。“あきらめない”、“ねばりつよく”、“はげましあって”合格するまで頑張ります。合格印をもらった子どもは誇らしげです。

校長も「よく頑張ったね」、「数字がしっかり書ける子は数学者になれるよ」、「漢字が大きく書けたね」と声をかけ励まし、できたことを褒めています。これから全学年、合格に向けて取り組みます。保護者の皆様も励まし、応援くださいますよう御支援をお願いします。

さて、学校だよりのトップ見だしは、2枚仕立てです。

「今は、存在していない職業に就く子どもたち」の見だしは、アメリカのデューク大学の研究者、キャシー・デビッドソンさんが

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」とニューヨークタイムズ紙のインタビューで語り、今、話題をよんでいるので紹介しました。これまでにない職業が生まれ、将来これらの職業に就く子どもが増えていくというのです。



城北小学校では、「夢を持とう」とキャリア教育に力を入れています。6年生が夢を「一字」に表現し、後輩はそれを見て、自分になりたい夢を描きます。夢を描ける城北っ子ほど「なんで勉強をするの?」「何になりたいの?」と自問自答し、しっかりと「自分探し」ができ、自己肯定感(自分の力を信じる力)が育ち、自信のある子になっていきます。どんどんやりたいものが変わっていくのもいいです。決めたことを貫き通す事もいいです。

大事な事は、職業を決めることではなく、どんなことができるのかな?どんなことで世の中の役に立てれるのかな?、誰かを幸せにしたいな、と考える事が大事です。

東京大学大学院准教授の山内祐平先生はおっしゃいます。「子どもたちが今まで存在しなかった職業に就くためには、コミュニケーション力やチームワークなどを学ぶことが大事」と話されています。だから、友だちと仲よくする、人間関係も大事な力です。

～あなたのやさしい一声でしあわせのバケツがいっぱいに～
だれもが持っていたいしあわせのバケツ



どんな人も持っているときされる幸せのバケツ。思いやりややさしさでいっぱいになれるバケツ。いじわるや傷つける言葉で、からっぽになるというバケツ。校長講話は、城北っ子が互いのバケツを幸せでいっぱいにしてほしいと願っていると話し、伝えました。

学級ではお話を聞いて、先生は、どう思ったか考えさせました。先生は、考えたことを作文に書くよう場や時間をつくって

くれました。やさしい気持ちが育つためには、一緒に考え、それを書くことが大事です。多くの城北っ子は、やさしい子です。私は、書いた作文を読んで心が温かくなりました。作文の多くが私のバケツも幸せでいっぱいしてくれました。作文を書いてくれた城北っ子にありがとうと伝えたいです。学校だよりを読まれる保護者の皆様の幸せのバケツをいっぱいにしたいのでご紹介します。2つの作文を紹介できたこともうれしく思います。どうぞ、保護者の皆様、子どもたちから絵本のお話を是非聞かれて、皆さんのバケツを幸せでいっぱいにして下さい。

どらなのてじ
もうる中けあ
だれそがるわ
ちじしなのせ
とくこくもか
けまなわあ
んるべるか
かどケとりた
しわッまリ
たかの代じな
くけ中がたが
なまがが
いしあなべた
でたしケリ
す。たくツし

思え思そって
いかけれしく。キ
まおまがわれそ
しかし読あましう
た々みわして、
つ。おせた。ち
わの。みよ
つ。バ本んう
ふ。た欠のなか
え。うッだに
るん。の取め本
だ。なじりをり
な。かたは読ま
と。で。んし

たい すし
よこて
うれと
にか
しらて
たはも
い。か
なかなし
あらしか
るッか
うぽ
思じ
いな
まら
しだ

だ か 読ッ
な。そしわみし今
ぜたのてたまあ日
なよといししわ校
ら思きましたはたせち
おいのす。なよ
ねまバ。おバウ
えすケねケ先ひ
ち。ッえッ生ら
は。ちしがちケ
人。は。ち。とち
と。か。ん。い。ゆ
けら。と。う。う
ん。け。本。会。な
か。ぽ。ん。ち。

かしこく、やさしく、たくましい城北っ子に育ってといつも声をかけましょう!

